

する内へふと見上なれば件の守と入れし所の守と一トす
をとり巢の内より隙をさし入れけりの雛妻く吞入り守
より奇特あれども用ひられし信ふにゆへかくけりしを是れ
ハ知ふに又いふに巢は人当りまおそくし雛の羽の
相葉毛も落越さ七かゝとけり巢へ入れずと見えバ
よぬいふも何れも巢の口は芝のさだてし巢を卸
けし如くぞとて巢へよを急ぎいひや羽^{むら}乱くとも飛出
まば再びよ入ぐし相尋ふ巢ハ八十八夜より十日十五